

皆さん、今日与えられた福音書の箇所は「山上の説教」の続きです。この「山上の説教」は、イエスが多くの人々に向かって、神の愛に生かされて、どのように毎日の生活を生きるかを語られたものです。特に当時のユダヤ教のもとで教えられていた生き方と対比するようにイエスは「しかし私は言うておく」、と前置きして、神の愛に基づく生き方を示しておられます。

今日の福音は、ユダヤ教の律法では「目には目を、歯には歯をと命じられている」という表現で始まりますが、これは被害を受けたのと同じ程度までは報復してよいという意味ではありません。無限に報復が繰り返されないように正義と公平の原則に基づいて、これ以上報復してはいけない、これ以上何もしてはいけないという制限を設けているものなのです。同じように、ユダヤ教では「隣人を愛し、敵を憎め」と教えられています。これは私たちの常識的な考えではないでしょうか。しかし、イエスは、「あなたがたに言うておくが、**敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい**」と言っています。このイエス様の言葉はどういう意味でしょうか。

私にとってこのイエス様の言葉をそのまま受け入れるのはとても難しいことと思っています。このイエス様の言葉は非常に挑戦的なものだと思います。これほどまでに自分を苦しめる人を愛し、その人のために祈ることは、ほとんど不可能だと私は思っています。

私自身の人生を振り返ると、いい思い出もありますがあまり思いだしたくない悪い思い出もあります。その思い出したくない思い出の中ひとつは、私たち家族を苦しめ、傷つけた人たちによって引き起こされた悲しい出来事です。それらの人々を愛すること、その人々のために祈ることなどできないという経験です。私は、イエスに従うキリスト者として、彼らを許し、愛し、彼らのために祈る必要があることをよく分かっています。しかし彼らを許し、彼らのために祈ることはとても難しいことでした。しかし、あるとき、イエス様が十字架につけられた時の祈り、つまり「父よ、彼らをゆるしてください。自分が何をしているのか知らないのです」。(ルカ23. 34)に出会いました。独り子を十字架につけるまで人間を愛された神様の愛を知ったのです。そのときから、私たちを苦しめている人たちを少しずつ赦し、祈ることができるようになりました。私は罪人ですが、神様に赦され、愛されているのだと感じたとき、彼らのために祈り始めることができるようになったのです。

実際、赦すということは、時間と恵みが必要だということがだんだん分かってきました。神様が善人も悪人もすべての人々を愛しておられるという真実を知って初めて、敵を愛し、敵のために祈ることができるのです。

私たちの人生の中には、どうしても付き合わなければならない人たちがいます。例えば、私たちの同僚、家族、隣人などです。そのなかでも不愉快な人たちと付き合うのは難しいことです。その不愉快さが憎しみやそれらの人々の存在を認めたくないという思いに変わったとき、私たちはどうしたらよいのでしょうか？ 主が命じられたように、私たちは本当に私たちを憎む人を愛することができるのでしょうか。

ある聖人が次のような意味深い言葉を教えています。

「愛に至る道には犠牲が伴っています。イエスが私たち一人一人を愛してくださり、私たちが永遠の命を持つことができるようになるためにはご自分の命を犠牲にされなければなりません。神ご自身が私たちのためにこれほどまで大きな犠牲を払ってくださったことを考えるとき、私たちは神のために一日中小さな犠牲を払うことができるのではないのでしょうか」。別のある聖人も次のように言いました。「もし神がすべての魂をご自分のものとして愛しておられることを私たちが知っているならば、私たちがその魂に対してどれほどの尊敬と崇敬と愛情を抱くことができるのでしょうか」。私たちが接する一人ひとりの人間の中に神の愛を見るとき、それは私たちの人生を変容させます。

私たちを憎んでいる人たちと接するとき、一人ひとりの中にキリストを見るようにしようではありませんか。私たちが彼らに親切にできるように祈り、小さな親切から始めてみましょう。

いったん、かれらのために祈り始め、小さな親切を実践すれば、相手が自分のことを嫌っていることをすぐに忘れてしまうでしょう。

後で振り返ったときに、もしかしたら私たちの小さな親切が彼らの心を変え、私たちを通してキリストの光に触れられるかもしれませんね。それを実現することについてイエスは決して簡単なことだとは言いませんでしたが、十字架の上で私たちにゆるしの祈りを示してくださっているのです。十字架のイエスの姿を見上げながら、私たちの人生を歩み続けたいと思います。

今日、私たちはイエス様の言葉に従い、少しでも敵を愛し、敵のために祈ることができるように祈りましょう。また、私たちを憎み、迫害する人々に、わたしたちが勇気をもって心を開き、愛を広げることができるようになることを祈りましょう。

*Lazun naw san Vincent(pime)*